

第3回 淡路花博 25 周年記念事業実行委員会 議事録

日 時：令和7年8月15日（金）10:00～11:10

場 所：淡路夢舞台国際会議場 B1F イベントホール

出席者：別紙のとおり

司 会：籾運営課長

<結論>事業実施結果、収支決算を報告し、実行委員会の解散について承認された。

○服部兵庫県副知事（齋藤名誉会長代理）あいさつ

- ・淡路花みどりフェア 2025 は、関係機関や協賛・協力企業、多くの県民の皆様の協力で、国内外から 190 万人もの来場者を迎えることができた。幸い期間中、大きな事故や混乱、当初懸念されていた深刻な交通渋滞等もなく、無事に全日程を終えることができた。
- ・今回のフェアは、これまでの集大成として、SDGs を体験できるイベントや国際シンポジウムなど、様々な事業のほか、自生種、在来種を用いた修景作り、放置竹林等の活用といった新たな具体的な提案を行うことができた。
- ・県民提案イベントやボランティア活動、SNS 等を通じた情報発信など、多くの県民に主体的に参画いただいた。このことが、地域の一体感をさらに高め、成功に導く大きな原動力となった。
- ・こうした取り組みにより、人と自然の持続的な共生のあり方をレガシーとして次代に継承発展させていくという本フェアの狙いが達成できたのではないかと考えている。
- ・アンケートによると、94%が満足と回答し、97%がもう一度淡路島に来たいと答えている。淡路島の美しい景観や恵みだけではなく、地元の方との交流を通じて、地域の温かさを感じてもらえたことは、私たちにとって何よりの喜びである。
- ・これまでの四半世紀にわたる取り組みにより、これからも淡路島が人と自然の共生の理念のもとに多くの人々を引きつけ、人と人をつなげ、輝かせる場所であり続けることを期待している。
- ・本フェアの推進役として、多大なるご支援、ご協力を賜った実行委員会の皆様、事務局、携わっていただいたすべての関係の皆様に、心より感謝申し上げます。

○田所委員長あいさつ

- ・多くの関係者の方々のご協力、ご支援により、88 箇所のサテライト会場を含め、190 万人の方々にお越しいただき、無事に終えることができたことに心からお礼を申し上げます。
- ・この間、兵庫県立大学の推計によると、100 億円に上る経済効果があった。

- ・フェアの開催にあたり、これまで積み重ねてきた経験などを生かして、淡路島の魅力を発信できた。
- ・アンケート結果にあったように私たちは多くの方々から寄せられた声に励まされるとともに、淡路島が持つ可能性を再認識することができた。そしてこれを一過性のものとすることなく、現在開催されている AWAJI 島博を含め、今後のまちづくり、人づくり、環境づくりへと持続的につなげていくことが、これからの私たちに与えられた責任であると感じている。
- ・本事業にご尽力いただいた多くの方々に感謝申し上げますとともに、人と自然が共生する淡路島の魅力を守り、育てていこうと考えているので、今後ともお力添えをいただけるようお願いする。

○議事

事業実施報告

- ・淡路花博 25 周年記念 花みどりフェアの事業結果に沿って説明（小山事業部長）

収支決算

- ・淡路花博 25 周年記念 花みどりフェア 収支決算書に沿って説明（小山事業部長）

淡路花博 25 周年記念事業実行委員会の解散

- ・淡路花博 25 周年記念事業実行委員会の解散についてに沿って説明（小山事業部長）

収支決算監査結果報告

- ・淡路花博 25 周年記念 収支決算書 監査結果に沿って報告（浅見監事）

<質疑応答要旨>

木村委員（淡路ふるさと塾塾頭）

- ・当初予算よりも節約した金額でそれ以上の効果を上げていただき感謝する。その節約された予算は淡路島に残るのか。兵庫県として淡路島に対する文化事業、産業の事業などに対する支援を変わずにいただきたい。

古川事務局長代理（淡路島くにうみ協会副理事長）

- ・削減した 7,000 万円あまりは、淡路島くにうみ協会の「淡路島くにうみ事業基金」に繰り入れ、協会の 4 つの柱の事業の一つである淡路花博の理念を受け継ぐ「花と緑あふれる環境づくり」に資する事業で有効活用していきたい。

守本委員（南あわじ市長）

- ・多彩な事業で非常に豊かな成果を残していただき、淡路島くにうみ協会、兵庫県、そしてご協力をいただいた民間の皆さんに感謝申し上げます。

- ・その要因の一つが、淡路島を上げて、官民を含めた委員会の構成にもあると思っている。実行委員会が解散し、今回が25周年の集大成ということだが、このレガシーやノウハウは、放置すると風化するので、どのように受け継いで発展させていくのかが、非常に重要な課題だと考えている。
- ・基本的には、淡路島側で考えていくべき話であり、努力していきたいと思っているが、フィールドパビリオンの取り組みのような、兵庫県の強力な後押しも不可欠だと感じており、強力なバックアップをお願いしたい。

服部兵庫県副知事（齋藤名誉会長代理）

- ・このレガシーをどう繋いでいくかということは、本当に大きな課題であると思っている。
- ・放置すると風化するということは、どんなテーマにも当てはまることだと思っており、例示として挙げていただいた兵庫フィールドパビリオンなど、万博が終わればこれでお終いということではなく、いかにこれを地域に根付かせていくのか、息の長いものにしていくのかということは、県としても非常に大きなテーマだと思っており、決して兵庫県がこれで手を引くというようなことはなく、淡路島の未来のために、様々な方と連携して、しっかり取り組んでいきたいと思っているので、ご安心いただければと思う。

投石委員（淡路おみなの会会長）

- ・25年間、5回の花みどりフェアで、一体感が生まれたのは間違いなく感じるので、これを次にどう繋ぐかというのは大きな課題だと思う。
- ・今日出たデータで一番気になっていたところがリピーターで、すごくいい数字が出たと驚いている。リピーターが一番大事で、一過性のブームは必ず終わるので、淡路島としては、みんなで一体感を持って頑張らないといけないと思う。
- ・AWAJI 島博は、継続性のあるものなのか、これっきりなのか、教えていただきたい。
- ・今回の花みどりフェアではあまり感じられなかった文化、歴史とか、私たちの淡路島の誇りは、もう少し大事にしていく必要があると思うが、全体的には素晴らしい集大成的なものになったと思う。

高木淡路島観光協会 CMO（木下委員代理）

- ・AWAJI 島博でやったことは三つあって、一つは、淡路島ならではの本物体験100プラン程度の開発。もう一つは、サブスク型のクーポンのスマートパスポート。あと一つは、島たまGO!という名前で行っているポイントを貯めて景品が当たる取り組み。このいずれもAWAJI 島博の終了後も継続できるようにやっていく。

以上